

●ペアで部屋の四隅(40分)

部屋の四隅に次のように書いた紙を張ります。

『思う』『ちょっと思う』『あまり思わない』『なんとも思わない』

いろいろな2人組になって、これから読み上げる文章について4つのコーナーのどこかを、2人組で考え、選んで動いてもらいます。30秒から1分程度の時間をとって、2人組で話しあった上で動いてもらいます。

2人組は、1問ずつ相手を変えて行動してもらいます(例えば、好きな色で2人組、好きな季節で2人組などと組んでもらいます)。

※部屋の四隅で使う文章例

- ・人間は本来みんな善良である。
- ・嫌いな人にはうそをついてもよい。
- ・怒りを表すには多少、相手を傷つけてもやむをえない。
- ・人間関係づくりにあいさつは基本である。
- ・感動的な映画で涙を見せないのは冷たい。
- ・どんな場合でも正直に言うのが一番だ。

いくつかの文章例で動いた後、各グループ(4~5人)になって、異なる感じや考え方が共存するために、必要な考え方や関わり方は何かを具体的に話しあいます。

🔊 ファシリテーターの問いかけ

- 「2人組で部屋の四隅をしていかがでしたか」
- 「行動を起こすとき、2人組でよかったことはありましたか」
- 「行動を起こすとき、2人組で困ったことはありましたか」
- 「行動を起こすとき、感覚や感じ方が違っていった場合どうしましたか」
- 「この感覚や感じ方の違いについて、考えを聞かせてください」

●ふりかえり(10分)

多様な感覚や感じ方を尊重する社会のために、私たちの心がけとして必要なことは何かを話しあいます。

🔊 ファシリテーターのコメント

- 「人それぞれの感覚や感じ方は、その人にしかわかりません。でも見えないその感覚や感じ方の違いを、常識や普通というカテゴリーの中にあてはめて私たちは気がつかないうちに決め付けや偏見、差別、暴力に向けているかもしれません」
- 「人間関係づくりが困難だといわれている中で、この感覚の違いを自覚し、お互いの感覚を知り、理解することが人間関係づくりの一步になると考えます」
- 「特に、発達障がいについては、「常識」・「普通」で決めつけるのではなく、個性として捉えていきたいと思います。このプログラムは、発達障がいへの理解の出発点にすぎません」

気持ちに耳を傾けよう

感情

誇り	感謝	競争	当惑
不安	とり残された感じ	両親の不和	不安定
満足	恐れ	おびえ	喜び
疎外感	依存	評価	孤独・・・

もっとふさわしいと感じるものがあれば付け加えましょう。

10代の男の子や女の子が以下のように言う時	その子が感じていることは
1. でも他の子はみんなあんなふうには髪を切っていないじゃない、どうしてわたしはダメなの?	
2. どう、僕の自転車気に入った?うまく塗っただろう?	
3. クラスのみんなはわたしよりもっと進んでいる。わたしのどこがまずいんだろう?	
4. いいよ。今度は自分でキャンプの荷造りできるから!	
5. ボブはわたしが好きだと言ったのに、今日スウと話していたわ。彼とは絶交しようと思うの。	
6. お父さん、今度は数学いちばんになったよ。やったでしょう!	
7. もしいつもみんなにケチばかりつけられたら、どんな気持ちがすると思う? わたしはいつも間違っただけなの。	
8. 彼女がバレーボールが上手だって全かまわないと断言できます。わたしはソフトボールが得意なんだから。	
9. 僕はダンスに行きたくてたまらないけれど、ジュディに電話をかけられない。もし笑われたらどうしよう?	
10. お母さん、ジャケットの手入れをしてくれてありがとう。最高の仕上げだよ!	
11. わたしは料理が嫌いです。デイヴィス先生はいつもいちばん難しい質問をわたしにするの。	
12. いや、あのジャンパーを店に返すつもりはないよ。似合っている感じがいいよ。	
13. 学校に来たばかりのあの新人のせいで、補欠選手に下ろされてしまったよ。	
14. 何があったかわかる! 化学で初めて合格点を取ったんだ。	